トピックス

Rhizoctonia solani AG-1 IB によるニンジン葉腐病と *Rhizoctonia* 属菌によるその他のニンジン病害

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構中央農業試験場　森（もり）　万菜実（まなみ）
地方独立行政法人 北海道立総合研究機構法人本部　三澤（みさわ）　知央（ともお）

はじめに

北海道におけるニンジン生産は，栽培面積 4,670 ha，収穫量 194,700 t といずれも全国第 1 位である（農林水産省，2019）。北海道のニンジン栽培は，春に播種し，秋に収穫する作型を中心とした大規模な露地栽培が行われており，播種から収穫まで機械作業により行われる。本道では黒葉枯病（病原菌：*Alternaria dauci*）が多発し，しばしば問題となっている。本病に対する薬剤防除が 1 作につき 2 回以上行われているが，2019 年には道内のニンジン栽培面積の 23.4％で本病の発生が認められた（北海道病害虫防除所，2019）。

2016 年に北海道中央部の後志地方で，収穫期に黒葉枯病に類似した葉枯性の病害が発生した。本病は *Rhizoctonia solani* 菌糸融合群（AG）-1 IB によるニンジンの新病害であることが明らかとなり，「葉腐病」の病名を提案した（Mori et al., 2021）。

我が国では，これまでに *Rhizoctonia* 属菌によるニンジン病害として，根部が腐敗する根腐病（長井・深津，1971），苗の時期に発生する苗立枯病（米本ら，2008）および根部に黒色粒が付着する黒あざ病（Misawa and Toda, 2013）の発生が報告されている。

本稿ではニンジン葉腐病について菌の分離・同定および病原性試験の結果を紹介する。また，根腐病，苗立枯病および黒あざ病についても各病害の特徴を紹介する。

I　ニンジン葉腐病

1　病徴および発生状況

2016 年 9 月，北海道後志地方のニンジンで生育後期に葉身および葉柄が褐変する病害が発生した（図-1a）。発生当初は黒葉枯病と誤認され，同病に対する薬剤防除が行われたが病勢の進展が止まらず，葉身・葉柄の枯死に至った（図-1b）。発病圃場の土壌表面には白い菌糸や菌核の形成が認められた（図-1b）。発病葉を顕微鏡下で観察すると *Rhizoctonia* 様の菌糸が確認された。2016 年の発生は収穫直前に確認されたため，茎葉の倒伏により

試読抜粋

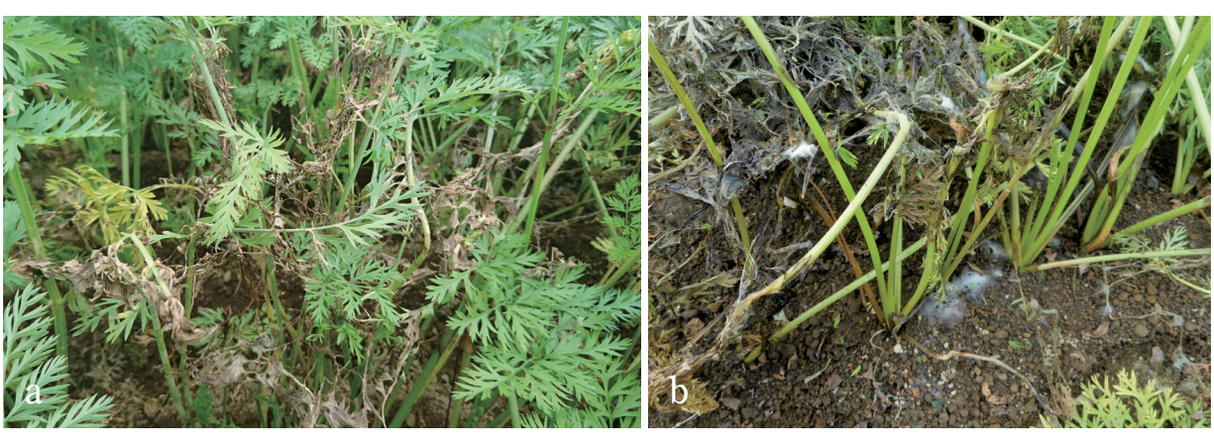

図-1　ニンジン葉腐病の病徴
a：葉身の褐変，b：葉身～葉柄の腐敗，罹病植物上と土壌表面に生じた白色の菌糸（坂内泰輔氏原図）（Mori et al., 2021 より転載）.

Leaf Blight of Carrot Caused by *Rhizoctonia solani* AG-1 IB and other Carrot Diseases Caused by *Rhizoctonia* spp.　By Manami Mori and Tomoo Misawa

（キーワード：ニンジン葉腐病，*Rhizoctonia*，診断）